

## 道路事業事前評価調書

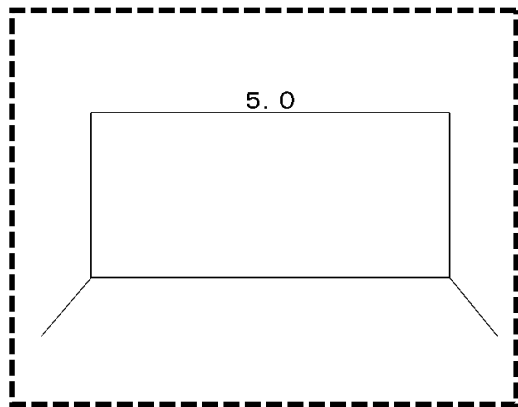
路線・河川等名	主要地方道 <sup>はまたんご</sup> 浜丹後線		事業名	道路整備事業	補助・単独の別	補助
事業主体	京都府	事業箇所（区間）	京丹後市 <sup>きょうたんご</sup> 丹後町 <sup>したんご</sup> 宮地内 <sup>ちやうみや</sup>			
事業概要	目的	<p>主要地方道浜丹後線は、宮津市日置の国道178号交差を起点とし、京丹後市弥栄町を経由して、京丹後市丹後町竹野の国道178号交差に至る丹後半島を縦断する道路で、地域の生活を支える道路であるとともに、丹後地域の観光を支援する重要な路線である。</p> <p>しかしながら、本事業箇所は、大型車との離合困難な幅員狭小であり、また線形不良、歩道未整備となっている区間であることから、歩行者及び自動車の安全性を確保し、地域内の通過交通を排除するとともに、観光拠点間等の連携強化を促進するため、この区間をバイパス道路で結ぶものである。</p>				
	内容	<p>整備延長：1.2 km                  現況幅員：W＝ 5.0 m 1車線 歩道なし                  計画幅員：W＝ 7.5 m 2車線 歩道なし                  事業費：約6.0億円</p>				
	上位計画等	明日の京都 丹後地域振興計画				
	スケジュール	着手年度 平成27年度 完成予定年度 平成31年度				
事業の必要性	事業を巡る社会経済情勢及び地元情勢等	<p>○自動車交通量 1,895台/12hr                  ○自転車・歩行者交通量 75人・台/12hr</p>				
事業の有効性	事業の効果及び費用対便益等	<p>○バイパス道路の整備により車両の円滑な通行が可能となり、車両の安全な通行環境が確保できる。                  ○通過交通が現道からバイパス道路に転換することから、現道を通行する歩行者等の安心・安全な通行が可能となり、沿道環境が向上する。</p>				
事業の効率性等	コスト縮減代替案立案等の可能性及び良好な環境形成・保全	<p>○バイパス道路築造により、車両及び歩行者の交通環境が改善する。                  ○二次製品の使用を促進しコスト縮減を図る。</p>				
総合評価	本事業は安心・安全な通行環境の向上を図るため、新規着手の必要がある。					



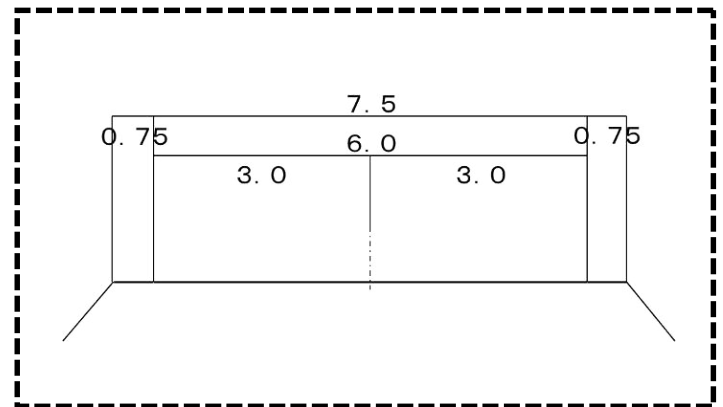
【広域位置図】



【位置図】



【現況横断面図】



【計画横断面図】



【現況写真】

『環』の公共事業構想ガイドライン評価シート

		作成年月日	平成27年4月22日			
		作成部署	建設交通部 道路計画課			
事業名	主要地方道浜丹後線 道路整備事業		地区名	京丹後市丹後町宮地内		
概算事業費	約6.0億円		事業期間	平成27年度～平成31年度		
事業概要	バイパス道路を整備することにより、安全で円滑な交通を確保する。 道路築造：延長1.2km、幅員7.5m					
目指すべき環境像	現道は、人家連担地で、幅員狭小であるため、バイパス道路を整備し、安全で円滑な交通を確保する。周辺は田園が広がっており、周辺環境に配慮した施工を行う。					
関連する公共事業						
地球環境・自然環境	主要な評価の視点	選定要否	施行地の環境特性と目標  道路幅員が狭く、歩道が未整備なため、車両の速度低下が発生することから、CO <sub>2</sub> 排出量を削減する必要がある。	環境配慮・環境創造のための措置内容  バイパス道路の整備により、円滑な通行環境を確保し、CO <sub>2</sub> 排出量の削減を図る。	環境評価	
	地球温暖化（CO <sub>2</sub> 排出量等）	○				4
	地形・地質					
	物理循環（土砂移動）					
	野生生物・絶滅危惧種					
	生態系					
生活環境	ユニバーサルデザイン		工事に発生する騒音・振動の抑制を配慮する必要がある。  事業実施により発生する建設発生土、資源の再利用に努める必要がある。	工事実施の際には、騒音・振動の発生が抑制される工法や低騒音・低騒音の機械を採用する。 建設発生土の現場内再利用を図るとともに、他工事へ流用することで土の有効利用を図る。	環境評価	
	水環境・水循環					4
	大気環境					3
	土壌・地盤環境					
	騒音・振動	○				
	廃棄物・リサイクル	○				
	科学物質・粉じん等					
	電磁波・電波・日照					
地域個性・文化環境	景観	○	自然豊かな地域であるため、景観を保全する必要がある。	景観に配慮した材料を使用するなど、周辺環境との調和に努める。	環境評価	
	里山の保全					3
	地域文化財の保全					
	伝統的行祭事					
	地域住民との協働					
その他						
外部評価						